

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎信徒一人ひとり教会活動に参画しよう。
- ◎地域との交流促進。

聖語 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。
(申6:5)

喜びの刈り入れのために

涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる

(詩編第126編5節)

司祭 ミカエル 小南 晃

10月の声を聞くと、やはり秋の涼しさを感じます。そしてこの季節、稲もたわわに稔り、はや刈り入れを待つばかりとなっています。豊かな収穫はまさに人の喜びであり、聖書にも収穫にかかわるみ言葉や教えが数多く出て参ります。

捕囚の苦しみと帰還の喜び

冒頭の詩編も収穫の喜びについて歌っているものですが、しかしこの詩自体はユダヤの人々が自分たちの国を失い、捕囚とされて遠いバビロンの国に連れて行かれていたのが、思いもかけない形で自分たちの国が回復され、そこに帰還できることになった喜びが歌われているものです。

もはや国の回復や帰還など望めない状況の中で、尚も諦めず自分たちの信仰と文化を守り続けた苦勞や悲しさと、それが思いがけず解放されて自分の国に帰ることが許された喜びを、収穫の喜びを語る、当時よく知られていたであろう「格言、ことわざ」を用いながら表現したものです。

それが「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる」というこの詩編の聖句です。

人生のあらゆる場面で

この詩は、本来は収穫に至るまでの多大な勞力、苦勞を表現しています。暑い炎天下での、水やりや雑草抜き、さらにそうした苦勞が水の泡になってしまうような災害も起こります。日照りや、大雨、またイナゴなどの害虫による被害など。今年は北海道と東北がさんざん台風被害にあい、主要な農作物が大打撃を受けました。

しかしそうした苦勞を通り抜け、ようやく刈り入れの時が来るということ。それは苦勞や悲しみが多ければ多い程、収穫に至った喜びもまたひとしおのものとなることを歌っているものです。

そしてこの格言が、捕囚の苦しみと、そこからの解放と故郷への帰還の喜びに譬えられているように、「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる」という言葉は、私たちの人生の様々な

場面において当てはまってくるものです。

涙なくして種を蒔くなら

しかし同時に、それが分つていながらも、私たちはともすれば、収穫までの勞力は出来るだけ省きたい、楽に多くを得たい、それが幸福だと錯覚しがちです。苦勞などせず、お金だけ儲かればよいのになどと思うのです。そして実際、稀にそういうチャンスもあるかも知れません。

しかしそうした時には、「涙なくして種蒔く者は、喜びの声なくして刈り取る」という状況になるのではないのでしょうか。

お金を儲けることは出来た、欲しいものは手に入った、そうした喜びは一時あったとしても、何時しか人生を意味あるものとして喜ぶことが出来なくなるのではないのでしょうか。

仕事において、人生において、悩みが多く、苦勞したけれど、しかし頑張り抜いたという思いを抱く時にこそ、喜びを持って刈りとるということが出来るでしょう。

「涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる」

私たちの人生の様々な場面において、時代を超えて変わることの無い真実であるこの御言葉を心に留め、それぞれに豊かな刈り入れの時を迎えて参りましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)